

令和4年度全国学力・学習状況調査 結果の概要及び今後の取組

丹波市立青垣中学校

令和 4年 12 月



本年4月19日(火)に中学3年生を対象に、国語・数学の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査が実施されました。その結果を分析しましたので、概要についてお知らせします。学校と共に学習について考えていただく機会にしたいと思っています。

1) 調査の目的

- ◆義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証しその改善を図る。
- ◆調査全体の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ◆学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2) 学力調査から見える成果と課題 及び 改善の方向性 調査結果〔全国との正答率比較〕

【国 語】 全国平均と同程度でした。

【成果】

- ・『選択式』の中で、「助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う」という設問は、全国平均を上回った。また、『短答式』の中で、「聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する」という設問は、全国平均を大きく上回った。語法を活用して相手に伝える取り組み等により「話すこと・聞くこと」の能力が向上したと考えられる。
- ・無解答率は、全国平均より低い項目が多く、国語の調査に取り組む前向きな姿勢が見られた。また「国語の勉強は好きですか。」の問いに、肯定的に答えた生徒は全国平均を大きく上回った。

【課題】

- ・『選択式』に比べ、『記述式』の設問は、無回答率が全国平均より高かった。特に、条件を満たして書くことに課題が見られた。
- ・事象や行為、心情を表す語句について理解することや、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解することに課題が見られた。

改善の方向性

- ・条件作文を多く取り入れ、互いに採点し合ったり、推敲し合ったりする活動を取り入れる。
- ・書くことへの苦手意識を除くため、自分の書きやすいテーマで自由に書く活動を取り入れる。また、タブレットなどでも作文を書くことで、正しい文法や漢字を知ることができ、作文の下書きとしてタブレットを用いる授業を心掛ける。
- ・語彙力を増やすため、何気ない会話から語句を調べたり、読書中に出てくる語句を調べたりする習慣を身につけさせる。ときにはタブレットを有効活用する。
- ・書写の時間にポイントを各自プリントにまとめさせ、楷書や行書の特徴を押さえる授業を展開する。
- ・タブレットドリルを活用し、復習をする機会を増やすとともに、つまづきのポイントを的確に把握する。

【数 学】 全国平均をやや下回りました。

【成果】

- ・「連立方程式を解く」問題や、「データの傾向を的確に捉え判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」問題は、全国平均を上回った。
- ・「数学の問題の解き方が分からないとき、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。」の問いでは、「当てはまる」と答えた生徒は全国平均を上回った。普段から授業規律を守り、落ち着いた姿勢で授業に取り組んでいる成果であると考えられる。

【課題】

- ・「素因数分解」・「反例」・「一次関数の変化の割合」の問題等の結果により、基本的な数学用語の理解に課題が見られた。
- ・「筋道を立てて考え、事柄がなりたつ理由を説明する」・「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見出し、説明することができる」など記述式の問題は、特に課題が見られた。

改善の方向性

- ・1年生の内容「数と式」の分野を中心に復習し、基礎学力テスト『礎チャレンジ』や放課後の『頑張るタイム』を中心に基本の定着と計算力の向上を図るとともに、つまづきのポイントを的確に把握する。
- ・基本問題の演習に加え、文字で表す問題や記述式課題に取り組む機会を増やしていく。
- ・タブレットドリルを活用し、自主学習や家庭学習の習慣化を図れるようにする。
- ・主体的に考える力をつけるため、グループワークやミニティーチャーの活用など対話的で深い学びにつながるよう工夫する。また、主体的な発言の機会も多く持ち、生徒の意欲向上につなげる。

【理 科】 全国平均と同程度でした。

【成果】

- ・生物における体のしくみなど、挿絵や図を見て比較して答えるものや、例に挙げられた実験をどうすれば改善できるかを答える問題は、全国平均を上回った。

【課題】

- ・地球を柱とする領域(気象等)の問題や、「記述式」の問題でその解答を選んだ根拠を答える問題は課題が見られた。
- ・「理科が好きですか。」の問いに、否定的に答えた生徒が全国平均より多かった。

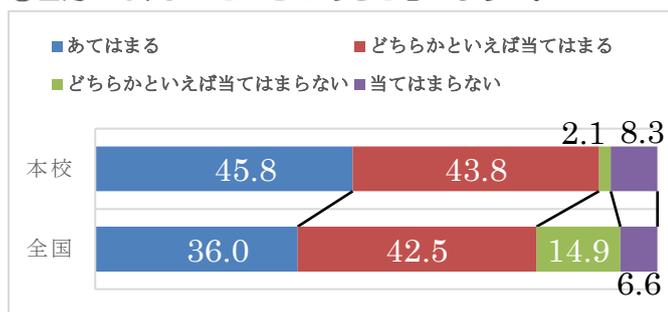
改善の方向性

- ・身近なものや生活に密着したものと関連付けて学習すること等により、興味関心を高める。
- ・基礎的な学習内容を身につけた上で新しい知識を身につけ、より広くより深く学習を進めるとともに、学習したことを活用できるようにする。
- ・教科書に載っている実験をするときに、条件を変えて実験をしたらどうなるかを考えさせる。
- ・定期テストの問題に、解答を選んだ根拠を答えさせる問題を取り入れる。

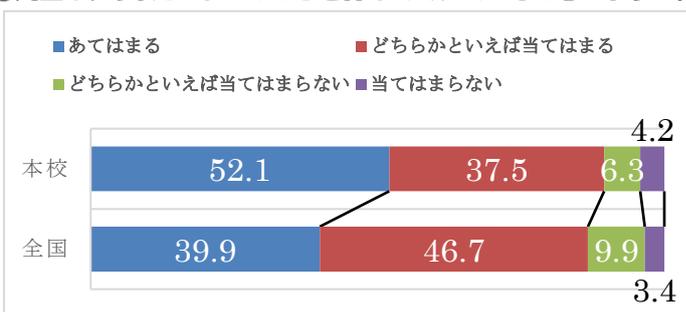
3) 生徒質問紙から見える成果と課題

自尊感情・自己有用感

①自分には、よいところがあると思いますか。



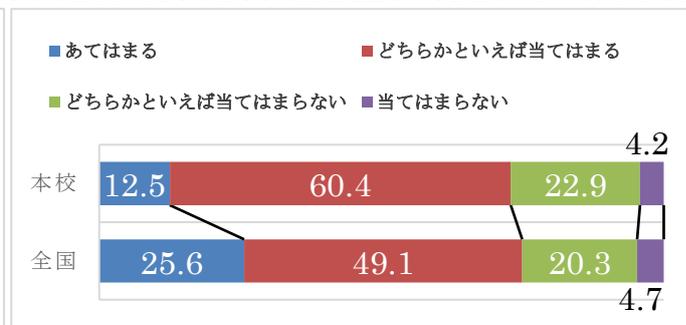
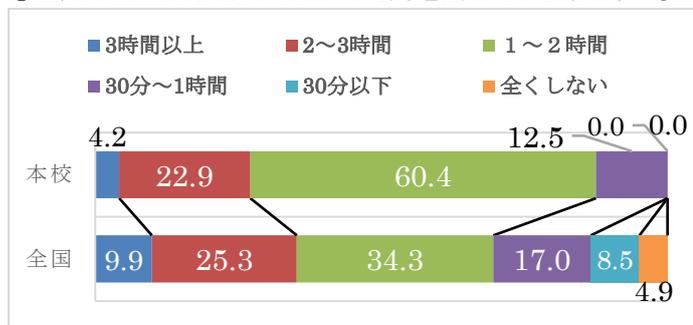
②先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



自分自身を肯定的にとらえている生徒や将来の夢や目標を持っている生徒は全国平均よりも多い。これはご家庭をはじめ地域や学校が、主体的に活動する生徒一人ひとりを応援し、しっかり支えているからであると思われます。学校では今後ますますキャリア教育を充実させ、生徒の自立を支援してまいります。

学習習慣

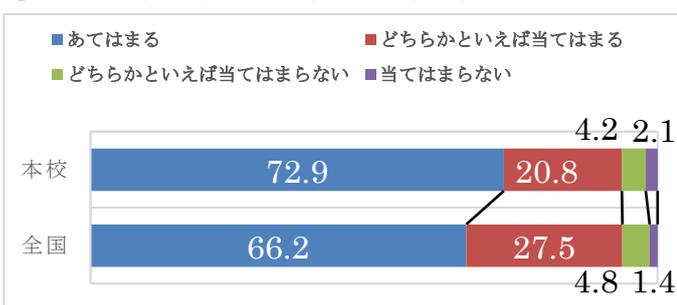
③普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。 ④分かった点やよく分からなかった点を見直し次の学習につなげていますか。



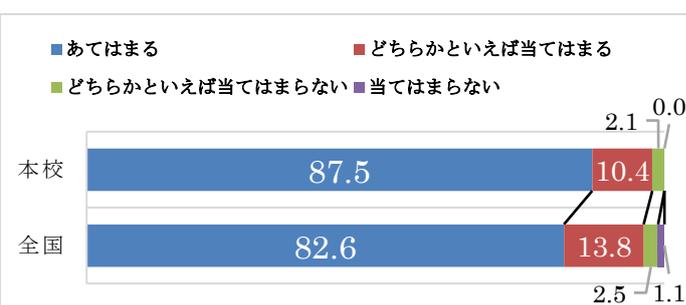
学校での学習は積極的に取り組んでいます。家庭学習の状況は課題があります。特に学校での学習を振り返り、次につなげる家庭学習に課題があり、その改善を進めます。各家庭においても、学習環境を整えることやスマホ・ゲーム等の使用ルールの作成など、学習に向かう子どもたちの支援をお願いします。

生活習慣・規範意識・地域連携

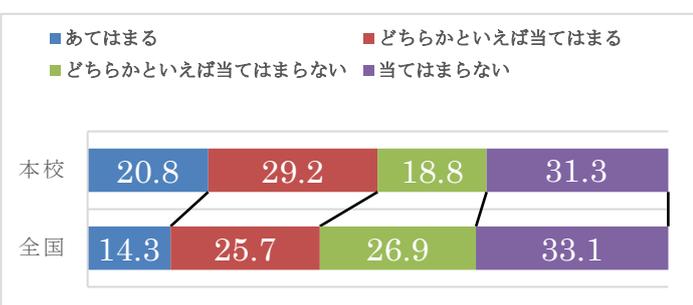
⑤友だちと協力するのは楽しいですか。



⑥いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。



⑦今住んでいる地域の行事に参加していますか。



多くの生徒は友達と協力して楽しく学校生活を送っていると考えられます。今後そう思える生徒をさらに増やしていけるように、いじめは絶対に許さないなど、多様な価値を認め自他ともに大切にする人権教育を進めるとともに、生徒中心の学校づくりを進めます。

また地域で活動している割合は、コロナ禍にもかかわらず、全国平均よりも高くなっています。これは地域行事に参加するだけでなく、トライやる・ウィークやコミュニティースクールの活動においても地域の方々から支えていただいているからだと考えます。今後も地域とともにある学校づくりを進めてまいります。